# RISC-V\_AXI\_slave追加手順

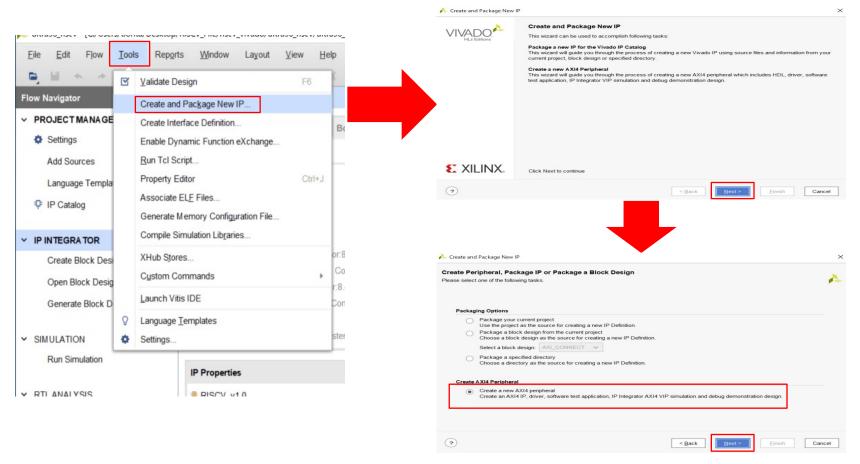
2021年11月30日

# 目次

- 1. IPのひな型を作成
- 2. 作成したIPの編集
- 3. IPの再作成
- 4. 作成したIPの配置

#### IPのひな型を作成

- ●メニューバー->Tools->Create and Package New IPをクリック
- Nextをクリック→Create a new AXI4 Peripheralを選択してNextをクリック



#### IPのひな型を作成

●IPの名前を決めてNext(例としてmyipとする)

●中心の+を押してInterfaceを2つにする(初期は1つ)その後、Interface Modeを2つともMasterに変更してNext

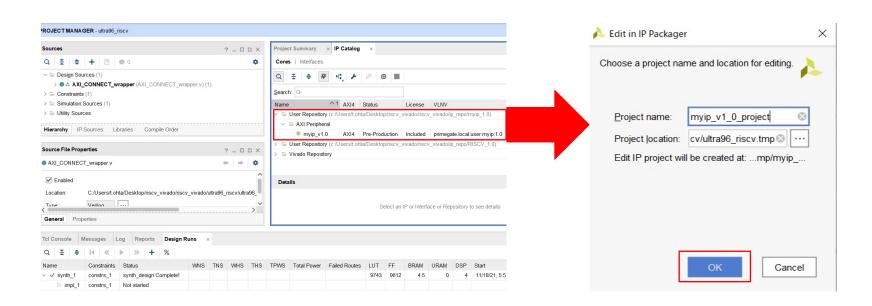
● Add IP to the repositoryを選択してFinish + - Enable Interrupt Support M01 AXI - MOO AX Interface Mode ⊕ M01\_AXI Memory Size (Bytes) 64 M00\_AXI -M01\_AXI myip\_v1.0 Create and Package New IP Specify name, version and description for the new peripheral myip 1.0 (3) Display name: myip\_v1.0 Create Peripheral @ ··· VIVADO. IP location: C:/Users/t.ohta/Desktop/RISCV\_File/riscv\_vivado/ultra96\_riscv/../ip\_repo Overwrite existing IP (primegate.local:user:myip:1.0) with 2 interfac 2. AXI4 VIP Simulation demonstration design more info 3. AXI4 Debug Hardware Simulation demonstration design more infe Peripheral created will be available in the catalog Add IP to the repository Verify peripheral IP using JTAG interface **EXILINX**. (?) Click Finish to continue

Create and Package New IP

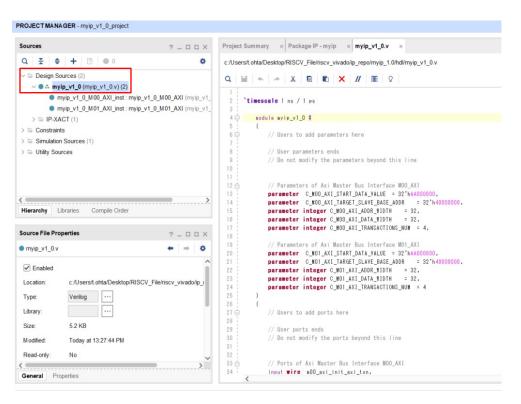
Add Interfaces

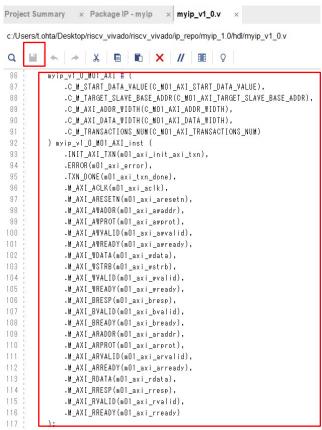
Add AXI4 interfaces supported by your peripheral

- Flow Navigator->PROJECT MANAGER->IP Catalogをクリック
- ●User Repository/AXI Peripheralの下に作成したIPが出来ているので それを右クリックしてEdit in IP Packagerを選択
- ●プロジェクト名と保存先を選んでOK(デフォルトのままでも良い)

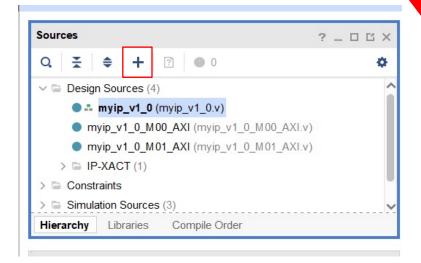


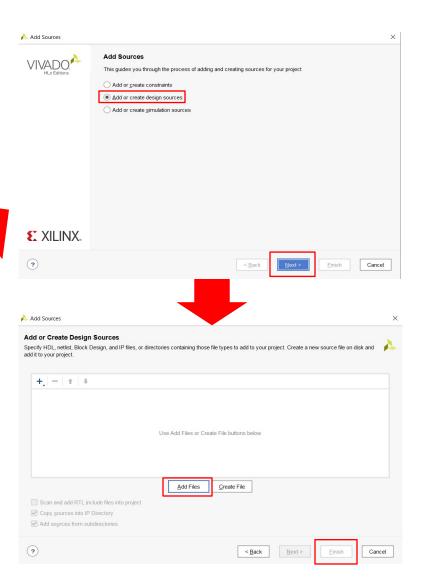
- 編集するための新しいVivadoウィンドウが開かれるのでDesign Source->作成したIPをダブルクリック
- ソースコードが出てくるので
  myip\_v1\_0\_M01\_AXI(~);、myip\_v1\_0\_M01\_AXI\_inst(~);
  myip\_v1\_0\_M00\_AXI(~);、myip\_v1\_0\_M00\_AXI\_inst(~);
  のコード全てをコメントアウト又は削除してから保存してください



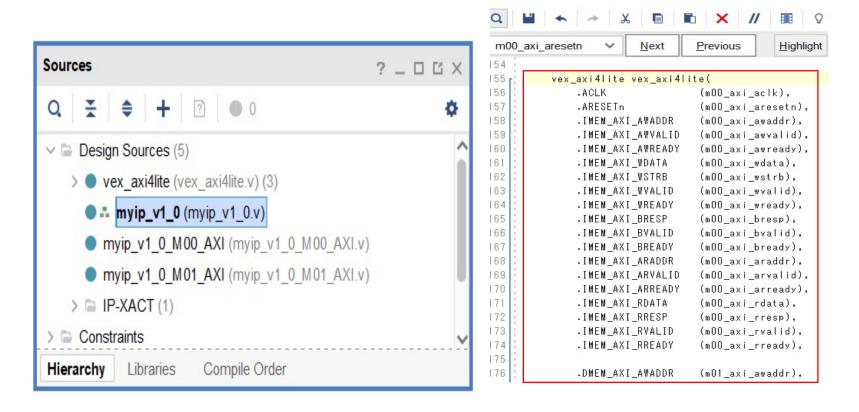


- Sourcesの+(Add source)をクリック
- Add or create design sourcesを選んでNext
- Add Filesをクリックして自前の追加したい ファイルを選択、Finish



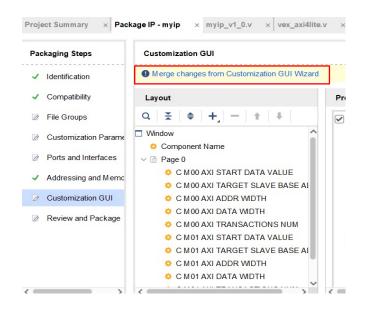


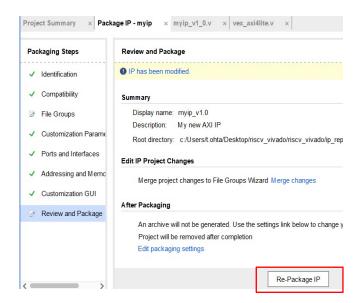
- Design Sourcesにソースファイルが追加されたら、 もう一度作成したIPのソースコードを開く
- moduleを右の図のようにインスタンス化させて保存します



#### IPの再作成

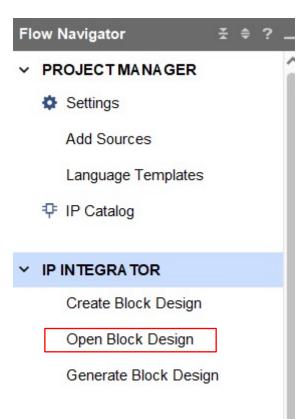
- ●インスタンス化出来たら作成したIPの階層に追加したソースファイルが移動しているのを確認 してください
- ●編集が終わったらIPを再作成します。Package IPタブでPackage Stepsが全てチェックマークになるように更新します。Customization GUIを選び、Merge changes Customization GUI Wizardをクリックしてチェックマークが出たらOKです。
- ●最後にReview and Packageを選び、Re-Package IPをクリックします。成功したら編集用のプロジェクトを閉じるか聞かれるのでYesをクリック

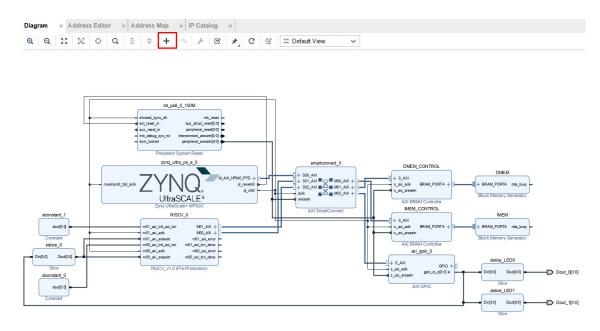




## 作成したIPの配置

- Ultra96\_riscvのVivadoに戻ってFlow Navigator->IP INTEGRA TOR->Open Block Designをクリック
- その後、ブロック図が出てくるので+(Add IP)をクリック





#### 作成したIPの配置

- 作成したIPをダブルクリック
- 配置出来たら、Run Connection Automationをクリック
- その後Validate Designをクリックして、エラーやワーニングがなければ保存する。
- RISC-V\_Vivado立ち上げ〜Vitisの起動まで.pptxを参考にGenerate Bitstreamまで終わらせる

